

宣教ウィズ With

手をつないで放送伝道

ラジオ「世の光」
テレビ「ライフ・ライン」を
放送している協力会と
「共に」宣教を進めるニュースレター

No.9 2017.8
[不定期発行]
太平洋放送協会(PBA)

九州北部豪雨など、今も自然災害による被害の中にいらっしやる皆様には、主からの助けとお慰めがありますよう心よりお祈り申し上げます。

さて、熊本地震から1年が経ちました。熊本ラジオ伝道協力会では、各協力教会も被災され大変な状況の中、このような時にこそ福音を届けることの重要性を思い、今も様々な活動が繰り広げられています。

「実りある放送伝道」を目指し、この1年、番組モニターカードや番宣名刺カード、トラックトやCDリーフレットなど、福音放送をサポートするあらゆるものを用いて福音を伝えていきます。しかし、その重要なポイントは、教会の伝道としての放送伝道ということです。放送伝道は教会の伝道の働きとしてなされて



続けて祈るのは、
主からの慰め

熊本の働き



いかなければなりません。そのことを踏まえ、「ラジオ伝道の手引き書」というパンフレットも作成し、各教会の伝道に組み込んでいくように呼びかけています。

また、今年の5月には、関根弘興牧師を招いて、「世の光のつどい」も行われました。そこには多くの方が集われ、みことばと証しによる励ましをいただく時となりました。また、集会が終わった後で委員会が持たれ、放送伝道の効果的な用い方などについても活発な話し合いがなされました。

熊本地震から1年が経った今でも、多くの問題が山積しています。実は、最近、あまり報道がされなくなり、関心が薄くなることによって、ボランティアが少なくなったり、働きが撤退したりなどの課題があるとのことでした。

特に※みなし仮設住宅などには、隅々にまで手が届かず、孤独死が起こってきているとのこと。また、1年経った今になって、今までことが重しとなって身体に影響が出ている方も多いとのことでした。

まだまだ、折り支えていく必要があるとともに、「世の光」を通して福音が届けられることを願って止みません。

さらに今年に入り、九州北部豪雨など、多くの被害が出ています。九州には、熊本ラジオ伝道協力会（熊本県）の他、西九州放送伝道協力会（長崎県、佐賀県、福岡県、宮崎県）の光放送協力会（宮崎県）の三つの放送伝道協力会があります。ぜひ、そのお働きのために覚えお祈りください。



※みなし仮設（みなしかせつ）は、災害などにより、居住できる住家を失い、自らの資金では住宅を新たに得ることのできない被災者に対し、地方公共団体が民間賃貸住宅を借り上げて被災者に供与し、仮設住宅に準じるものとみなす制度。[wikipediaより]

宣教協力アドバイザー 谷川憲一

You Me ユー・ミー・ポスト Post フォロアップ係より

宣教協力アドバイザー 石原由美子

PBA制作番組のほとんどは、番組プレゼントをしています。過去の資料にも、その目的が記されています。

1. 番組の視聴状況を知る。
2. 視聴率、聴取率を高める。
3. できるだけ多くの反応を得る。
4. 信仰的な物（聖書等）を渡すチャンス。
5. 通信講座や教会紹介などにつなげる。

これまでにプレゼントの有無により、おたよりの来信数がどう変わるかという統計や、プレゼント内容での変化につ

メール・プル?

いての分析などが行われたこともありましたが、過去には手紙で引っ張るという造語で、プレゼントのことを「メール・プル」と言っていた時代もありました。

どの時にも、担当者の先生方が真剣に考え、取り組んできた足跡があります。現在もこのプレゼントによってレスポンスが変わってくるということを実感されているご担当者もいらっしやると思います。番組プレゼントにも、とにかくチャンスを生かして、ひとりでも多くの方に福音をお伝えしたい。その思いが込められているのです。

放送伝道ヒストリー 各地域での放送伝道の歴史

石川県放送伝道協力会

石川県放送伝道協力会は今年で37年を迎えます。しかし、石川県での放送伝道の働きはもともと古くからなされてきました。当時のご様子を協力会顧問の塚田良一牧師にお話をうかがいました。

石川県での「世の光」は、1954年2月以降、宣教師団体の支援により北陸放送からなされています。63年も前のことです。その後、1967年に放送が中断し、13年間のブランクを経て、1980年に「世の光」が再び始まりました。

当時、日本同盟基督教団、イムマヌエル綜合伝道団、聖書教会連盟などの福音派の教会で組織され働きが始まったとのこと。現在では19の教会と1団体が加わっています。

設立時、中心的な働きをしていた初代会長の若狭正一牧師は、ある時、能登を移動する最中、何十もある集落にどのようにして福音を伝えたらよいのかと思わされたそうです。実際に、直接自分たちで福音を伝えようとしたら莫大な労力と時間がかかる。しかし、電波ならば、どんな山奥にも、田んぼの真ん中にも福音が届けることができる。福音宣教は放送以外では果たせないと思わされたということを実証されていたそうです。

そのように始められた協力会ですが、しばらくは、一部の教会や信徒たちが経済を支えていたという状況でした。しかしこの働きは一教会だけでなく、



顧問 塚田良一牧師



委員長 岡田 仰牧師

きただけ多くの教会が協力し合うことが大切との呼びかけもあり、厳しい現実がありながらも、徐々に多くの教会の協力によって支えられるようになったそうです。

2010年、石川県放送伝道協力会は経済的には大変な時期を迎えました。徐々に累積赤字が増えて、放送料の支払いが追いつかなくなり、100万円を超える赤字となったのです。しかし、当時、PBAとの協議の上、また放送によって福音を届けることの大切さを思い、もう一度頑張ってみようということになり、その後、少しずつですが、5、6年をかけてマイナスからプラスに転じていました。

その時に始めたことが、ここ数年「世の光のつどい」の最終日に行う、「ビュッフェスタイルの食事を共にしながらの「支援者のつどい」です。興味をもってもらえるような企画を行いながら、多くの方に気軽に集まっていただけの集会となり、現在も多くの参加者が与えられ励ましの時となっています。

石川県には超教派の働きがいくつかありますが、関わりのあるメンバーは、ほとんど石川県放送伝道協力会のメンバーでもあります。そのため協力会の委員会では、さまざまな働きの情報がシェアされています。現在会長をしておられる岡田仰牧師は、さまざまな働きとのつながりも広く、石川県の超教派の働きの窓口としての役割も担っています。これからの時代、石川県放送伝道協力会は、ますます地域の重要なネットワークとなっていくことでしょう。



委員会の様子

『宣教 With』は、各地の放送伝道協力会に向けた広報誌です。各地の協力会のお働きの紹介をしながら、皆様と共に宣教の働きをさせていただいている太平洋放送協会(PBA)のことについても、情報をシェアできればと思っています。